

登録コード	HM139100	開講年度	2026				
授業題目	分子生物学基礎特論				担当教員	平塚 佐千枝 他	
英文授業名	Molecular Biology, Basic				副担当	富田 毅・加藤 真良・芦原 典宏	
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				・医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能を習得し、使うことができる。		
(2)詳細/Detailed information	われわれの体は、極めて多くの種類の細胞から構成されており、それぞれの細胞が独自の機能を発現しつつ協同することにより、生命現象を支えている。それぞれの細胞は、臓器特異的な形態・機能を持っていることが多く、変化に富んでいる。しかしながら、分子レベルでこれらの細胞を見てみると、細胞は共通の生体分子によって構成されていることがわかる。本授業では、生体における分子の構造と機能に関する基礎的知見を涵養することを目指す。						
(3)授業の概要/Overview of course	DNA、RNA、タンパク質等の生体分子の構造・機能が生命活動にどのように関わっているのかを、基礎医学の観点から体系的に講義する。						
(4)授業計画/Course plan	(第1回―4 回) DNA・RNAの構造と機能 (第5 - 7回) 細胞外マトリックスの構造と機能 (第8 - 11回) サイトカイン・ケモカインとレセプターの構造と機能 (第12 - 13回) 細胞内情報伝達分子の構造と機能 (第14 - 15回) 転写因子の構造と機能						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	(a)成績評価の方法 講義中の質疑応答をもとに評価する。期末試験の得点の60%以上を合格とする。 (b)成績評価の基準 世界の最先端の情報を随時把握するように努め、年度毎に到達レベルを質疑応答および発表形式により評価する。上記の概念、知識、研究への還元への応用性を鑑みて、卓越している(秀)」、「かなり上にある(優)」、「やや上にある(良)」、「水準にある(可)で成績を評価する。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	事前事後学習の内容 論文を読むことで、最新の知識を習得するように、教官と学生は両方向性の質疑応答を行い、授業中に解決しなかった項目について自主学習を行い、その後教官と再度議論を行い、習得する。						
(7)質問、相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡						
(8)授業の形式/Course format	論文を中心とした質疑応答方式						